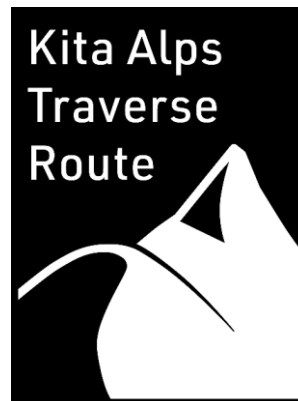


P案

<4C>



<1C>



松本と高山の間にあり、かつ印象に残りやすいものとして「槍ヶ岳」をモチーフにデザイン。長野・岐阜両県の県境から見た構図で両エリアのつながりを表現するために、青色側が高山、白色側が松本という意味合いでデザイン。

また、色彩として青色を使うことで、両エリアに共通する美しい空と水を表す。

ロゴを利用する際、シンプルなデザインと併せて背景の様々な写真を透過して使用することで、松本高山間の豊かな色彩やそれらの変化を感じてもらえるように工夫した。

P案

<使用展開イメージ>



<4C>



Kita Alps Traverse Route

<1C>



Kita Alps Traverse Route

高山と松本、その間にある一番標高の高い山「奥穂高岳」をつなぎ、その断面図をモチーフに作成。
左側が高山で、右側が松本、高い三角形が奥穂高岳。
横の長さは山越え（Traverse）が必要なこと、稜線から空を切り取ることで険しい山々があっても、空で両者が繋がっていることを意味している。

ロゴを利用する際、シンプルなデザインと併せて背景の様々な写真を透過して使用することで、松本高山間の豊かな色彩やそれらの変化を感じてもらえるように工夫した。

Q案

<使用展開イメージ>





松本～高山のつながりや高低差、様々な通り抜けが出来ることを表現しつつ、
Kita Alps Traverse Routeの「屋号」になるようなデザイン表現。
MとTを組み合わせることで、Matsumoto-TakayamaやMounTain等の
意味を持たせながら様々な展開が可能になることも想定。

また、MとTが絡み合いながら形成されることで、この松本～高山の滞在や通
り抜け方の多様性や人・自然とのつながりの深さを表現している。

R案

＜使用展開イメージ＞



S案

<4C>



<1C>



松本～高山のつながりや高低差、様々な通り抜けが出来ることを表現しつつ、
Kita Alps Traverse Routeの「屋号」になるようなデザイン表現。
MとTを組み合わせることで、Matsumoto-TakayamaやMounTain等の
意味を持たせながら様々な展開が可能になることも想定。

MとTの表現を、より日本らしい「家紋」を意識してデザインすることで、
世界中から来る旅人へ印象に残りやすさを狙っている。

S案

<使用展開イメージ>

